令和6年度第1回恵那市市史編さん委員会 議事録

日時：令和6年5月16日（火）午後15時00分～
場所：恵那市役所 会議棟大会議室

- 1 開会
 - 2 教育長あいさつ
 - 3 委員長あいさつ
 - 4 議事
 - (1) 令和5年度の事業報告
 - (2) 令和6年度の事業計画
 - (3) 本文原稿の承認
 - 5 閉会
-

1 開会

□事務局 ただいまから令和6年度第1回の恵那市史編さん委員会を開催させていただきます。よろしくお願いいたします。まず、裏面2ページに編さん委員のメンバーがございます。あと、事務局がございます。本日欠席のご連絡をいただいておりますのが千藤安雄委員と瀬瀬佳恭委員となっております。3ページに設置要綱がございます。この6条2項により半数以上の委員の出席がございますので、この会は成立いたします。

本日の議事の内容でございますが、今年度スケジュール、本文原稿内容の確定、口絵・資料編内容の確定、表紙の生地、の主に4本でございます。

次に資料の確認でございます。この主題に加えまして、資料1 今年度スケジュールについて。資料2の1としまして事前送付をさせていただいております初校原稿。資料2の2が本文内容の確定について。資料3の1が口絵・資料編の確定についての口絵写真。資料3の2が口絵・資料編の確定についての資料編。資料4が表紙の生地について。となります。不足資料はございませんでしょうか。

それでは次第1の新委員の委嘱交付になりますが、今年度より笠置地域自治区の吉田会長とまちづくり企画部の伊藤部長に新たに委員の委嘱をしますが、時間の関係上机上で配布をさせていただいております。続きまして、次第2といたしまして教育長よりご挨拶を申し上げます。

2 教育長挨拶

□教育委員会教育長 市史編さん委員会開催いたします。お集まりいただきまして本当にありがとうございます。私も原稿を見させていただいて、読み甲斐のあるものがあるなということ。それから私も長く務めさせていただきましたけれども、知らないこ

とも沢山あるし改めてこういうことが起こっていたのだなっていうことも感じる事が出来る。本当に良いものが出来るなということを思っております。皆さま、そしていろんな方々のおかげだと思っております。今日はその中で原稿等について、また表紙などについて色々ご意見頂くということですのでけれどもよろしく願いいたします。

それから挨拶ということでございますが、今日お見えになっております委員長ですけれども、先日瑞宝双光章を受けられて。素敵なことですし、そういった方に携わっていただいたことがまたひとつ良いものが出来るのではないかなと思っております。委員長おめでとうございます。それではよろしく願いいたします。

□事務局 続きまして次第3といたしまして委員長よりご挨拶を頂戴いたします。

3 委員長挨拶

□委員長 座ったままで失礼いたします。原稿は恵那市内の良き書き手が選出されまして、そして良き原稿を作っていただきました。そして皆さんで原稿を整理していただきまして原稿が確定しました。初校原稿を今回皆さんに読んでいただいて、原稿に細かくご指摘いただいたところも、大きく意見をいただいたところもでございます。今日は初校の、これで後悔がないようにということで意見を出し合っていただきまして確定していきたい、ということでございます。これをもって編さん委員会を以上ということで、最後の一回でございましてどうか慎重にご審議をお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

□事務局 ありがとうございます。ここで教育長の方は他の公務がございまして退席をさせていただきます。すみません、よろしく願いいたします。それでは委員長の方から議事の進行をよろしく願いいたします。

4 議事

(1) 今年度のスケジュールについて

□委員長 議事はそこに並んでありますが、最初に今年度のスケジュールについて。事務局から説明をお願いします。

□事務局 よろしく願いいたします。では、資料1に基づきまして説明させていただきます。お手元の4議事(1)今年度のスケジュールについてですけれども、5月16日、本日の編さん委員会にて内容の確認を済ませまして、5月31日に初校の原稿を印刷会社に返却をさせていただきます。6月上旬に二校を受け取り、校正。7月下旬に三校を受け取り、校正。このあたりでページ数を確定したいと考えております。7月末に四校を受け取り、校正。8月上旬に五校を受け取り、校正。8月9日、五校返却し校了。ここで印刷の開始ということで、9月末に納品。10月、恵那市制20周年記念式典にて配布。関係団体へ配布をして、一般販売もこの時期となりまして、100部でございまして。価格は未

定になります。Web 版の整備も併せて進めさせてもらいます。今年度予算ですけれども、こちら見ての通りですね。謝礼、印刷・製工費、完成品発送業務となっております。印刷及び委託業務先はサン・ライン株式会社でお願いしております、印刷予定部数は1300冊、CD-ROM は5枚。20周年式典にて配布は800部、関係市町村関係機関は180部、市内施設配布は55部、販売は100部、予備保存用で165部を一応予定しております。以上で今年度の予定については説明を終了させていただきます。

□委員長 ありがとうございます。只今の説明につきまして、何か質問や意見があったらお話いただけます。どうでしょうか。

□委員 スケジュールの初校返却のあと2校、3校、4校、5校受け取り校正。ということですが、このところは特にこの委員会の開催はされないわけですよね？

□事務局 はい。委員会の開催は今回をもって最後とさせていただきます。

□委員 いいですか？

□委員長 はい。

□委員 例えば今日直しなどの色々した場合、そのあとの確認に我々はもうノータッチということですね。

□事務局 恐れながらそのような形になります。

□委員 今日したことの確定っていうのはどこでされるのですか？

□事務局 確定しましたよ、っていう返事は今の段階では20周年の記念式典の配布という感じになってしまいます。

□委員 それだともう出来ちゃっているから。我々が今日協議したことの直しがもしあった場合、それは誰も分からないじゃないですか。

□事務局 はい。

□委員 教育委員会の方ではわかっているけれど、それはやっぱりどこかでリターンをしてくれないとおかしくないですか？ 今日これやったことの意味が無くなっちゃうとか、しっかりと反映されていますね、っていう確認はあるかと思うのですけど。それは責任校了でそちらがされるってことでいいですか？

□事務局 こちらにつきましては2校、3校、4校、5校とありますので、まだ直せる段階のどこかのタイミングで文字であるとか数字であるとか、そういったもののお示しをしたいなと思っています。

□委員 そうすると今日が最後じゃないよね。

□事務局 委員会は今日で最後ですけれども、こういった数字とか文言の話になってきますので、これでよろしいですね、といったものは渡した方がいいかなと思っております。

□委員 そもそも5校までされる予定ですよね？

□事務局 はい。

□委員 回数が多すぎると思います。そこまで慎重にやられるのであれば、こうしたと

ころの意見をしっかり反映しているってことの確認をしてほしいですね。そこまで細心の注意を払って5校までで足りるとのことなので。

□委員 3校くらいで1回。

□委員 何か一度しないと。皆さんこれでいいですか？ 『いいです』って言うのであればそれで全然問題ないです。多分そうではないと思います。

□事務局 またどこかの機会を使いまして、自治会長会議の後ですとか、そういったところでお見せをして確認作業を取っていきたいと思いますのでよろしくお願ひしたいと思ひます。

□委員長 修正点についてはやはり文書とか、或いは電話でね、お答えをしていくと。

□委員 関連していいですか？

□委員長 はい、どうぞ。

□委員 今の話に付け加えたいのですけれど、例えば126ページを見てください。今日の会議で『最後にこういう空白を置かないでほしい』っていうことと、最後に写真をつけるというのは余ったから写真を入れているようで『他にも見られていないな』ということ伝えて、『変えてほしい』という意見を持ってきました。今言われたように、そういう意見を吸収してきちんと『変えましたよ』とかね。

□委員 他の地区もそうですけれど。カッコいいのは110ページの三郷みたいな感じに最後でバチッと終わると本当によく宣伝されているというか、考えられているなということも思って。他は空白がいっぱいあるんですよ。

□委員長 これ、まだ完成じゃないです。まだたくさん修正点あります。皆さんからいただいたこれにもたくさん。結構線が入って。それこそ私どもも書いておきまして。写真とかタイトルとかまだ整理しないといけない部分がいっぱいありまして。

□委員 すみません。初校の段階で会議を開く、っていう意味がよくわかりませんね。もう少し完成度が高くなって……

□委員 ここで直しを入れたいのは僕もたくさんある。

□委員 いっぱいあるんですよ。

□委員 だから今やってもらわないと。

□委員 もう会議ないってことよね？

□委員 煮詰まってからじゃあ。だからもう一回必ず見ないといけないと思います。

□事務局 はい。

□委員長 『こう直しましたよ』ってね。それは出来ないことではないよね？

□委員長 で、もちろん私どもの見つけている修正点も沢山あります。そういうのはやはり前のこういうものを作った経験が整備してきますので。そういうものが最高傑作に反映していくと、そういうことで。他にありませんか？

□委員 今と同じようなものがあって、116ページですね。文面が串原と同じような状態なので、こういったところも直していただけると。

□委員 直しの指示はとりあえず皆さんあると思うので。

□委員 まるきり反映すると大変なことになる。どうしようもないこともある。

□委員 一つ提案として各地区の会長が委員として入っていますので、この間送られてきたこれを見て訂正箇所が何カ所かあるかと。ここでやると時間かかっちゃうので、教育委員会の編さんの方で『このところどうですか?』と検討してもらったものを反映して、先程見返しがあったようにどこかの段階で今日以降に構成されたところがわかるような形で、示してもらいたいなど。

□事務局 はい、わかりました。過去にも意見をいただきまして、それを精査しましてまたこういった場でお示しをしたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

□委員 恵那市制20周年での市史なので、あとで『ここ違った』なんて非常にみっともないというか、そういうこともあるので内容だけでもちゃんとしてもらえればと。

□事務局 はい、十分留意してまいります。

□委員長 ありがとうございます。今年度のスケジュールについてはよろしいでしょうか? それでは(2)の本文内容の確定について、まず事務局から説明してください。

(2) 本文内容の確定について

□事務局 では事務局から説明させていただきます。資料2-2、議事(2)本文内容の確定についてというような内容でございますが、こちら話をさせていただく前に3点ほどですが事務局からお知らせがございます。まず、議事(2)本文内容の確定についての資料に書かれている2点ですが、市長選挙のことについて50ページですけれども前回委員会の意見を考慮しまして、委員長了承のもと、落選者さんのお名前を省かせていただきました。続きまして231ページの恵南の中学校の統合についてですけれども、今回お送りした原稿の中では経緯の分かりにくい部分がありますので、課題内容を新たに挿入することとさせていただきます。新しく入れる内容がこの資料の裏面になりますので、ご覧いただければと思います。そして最後の1点ですけれども、本文の137から138ページにある新型コロナウイルス感染症対策のものですけれども、コロナウイルスの感染症の説明をまるまる削除するような指示が書かれたものをコピーして送っておりますが、こちらは内部でもう一度協議した結果、残しておくというような形になっております。この削除はなかったものと考えていただきたいです。以上で事前に配布された資料の追加説明を終了させていただきます。

□委員長 いかがでしょうか? 今後の議題は確定になっていきますけれども。なお、お手元に最後の議事の生地の例が用紙で回っております。今後に活用したいと思います。それを見ていただいて、(4)ですね。はい、じゃあ戻りましてこれまでの確定についてはどうでしょうか?

細かい問題点については私ども事務局もたくさんの付箋を貼って、これは直していきます。なお、ちょっと大きい修正につきましては個々を検討して『このように直しました』『ど

うでしょうか』というようなことをやりまして、最後としてそれをまとめてお送りします。そのような風に考えていただきたいと思いますがいかがでしょうか？

□委員 個々の部分であって、全体に関わる場所についてはこの場で皆さんと共有をした方がいいぐらいのことですよね。

□委員 各自治区のところは各自で。

□委員 19ページの上の段の右側。『このように、二市一二町村による合併が一時検討されたが協議は白紙となり、改めてえな郡南部地域合併……』の『検討されたが協議は白紙となり』と書いてありますが、何故白紙となったのか。これは私の個人的な意見ですが、将来、また再合併となった時にこのとき何が課題となって中津川・恵那市の協議が白紙となったのかっていうことも、その時の資料があればちょっとでもここに書いておくべきではないかなと。皆さん、どう思われますか。

□委員 白紙となった理由が明記されていないので、っていうことですね。

□委員 そうです。

□委員長 これ興味深いところがありますね。そう長くないので簡単に述べられますね。修正ね。確かにいいですね、柘植さんのお話。ちょっと入れましょうよ。

□委員 簡単でいい。そんなに詳しくなくていい。

□委員長 入れましょう。どうぞ、他にある方。じゃあ順番に行きましょう。

□委員 1ページ目を見てもらうと例えばですけど、上の段5行目の『平成一二年(二〇〇〇)』と書いてますね。ところが改行がされた『平成の合併は、平成一一年に』と書いて、括弧の西暦が書いてないんですよ。この字体がずっと、途中まで見て行って嫌になっちゃうぐらい。何百カ所か出てくるので、どちらかに法則を統一してほしいです。どちらかに統一するのでしょうか、例えば44ページの下の方の改行がされた後の2行目です。そこに当時の県議会の議第八一号としての平成一六年。この場合は西暦いらないと思うんですよ。こういうものには西暦書いてないので。だからこういう時の西暦は必然的に除いちゃうけど、あとのところはどうか、ですよね。

□事務局 すみません、こちら事務局側としての基本的な考えとしましては、項目の中で一番最初に年数が出てきたときは括弧で西暦を付けて、それ以降を省く、という風な考えではありますが、確かにぱっと見はそうですね。

□委員 それならいいですけど。そういうことで統一がずっとされているなら。

□事務局 一応そのような考えでまとめさせてもらっています。

□委員 そうすると、例えばさっき言いましたね。36ページのところの下の方。新市の概要の時にそちらで直しを入れてもらってます。『昭和65年(1985)から平成21年まで』と書いてあって、ここに直しで『(2000)』と手書きで入れてありますね。

□事務局 それはこちらが間違えました。訂正です。

□委員 それからもうちょっと言いたかったのは、括弧でこうやって入れてあるのに、例えば『平成6年度』とあるのに、そこに西暦が入っているんですよ。それはちょっとお

かしくないですか？ 年度、ですから。そうすると西暦が入るのはまたちょっとおかしい話なので、その辺も早速合わせてもらおうと思います。

□事務局 はい。こちら合わせるように検討させていただきます。

□委員 さっきの新市の概要のところは昭和から平成に変わっているので、この2つは入っている方が親切だと思う。

□委員 そういう基本方針があれば、それでやればいい話なので。それからすみません。ちょっとまた言いますが36ページの下段の終わりから4行目。『平成32年』と書いてあります。これ当時の文章から抜き書きをされているのでこうなっているんですよ。でも平成32年、存在してないですよ。これは何か他の言い回し……

□委員 つまり令和2年って書けばいいのでは？

□委員 その時から『20年後のこと』だとか、それから『10年前のこと』だとか、そういう書き方にして、前も言ったんですけどその時には合っていた文章が後のときになると表現がそぐわないってことが出てくるので、こうしたものは極力整理をしてほしいと思います。

□委員 つまり指標の推移では32年までって表は書いてあるのに、現実には30年までで、『つまり令和2年に』って書いてあるからこれでいいんじゃない？

□委員 だから当時の文章をそのまま載せましたってことなんですけど、これは今度の式典で出る資料ですよ？

□委員 平成32年、つまり令和2年ではって書いてあるからこれでいいじゃない。

□委員 平成32年で止まるんじゃなくて令和2年では、って書いてあるんだから。推計としては平成32年として出してるんだから。

□委員 その前の3行目ですね。3行目のときも平成12年(2000)から平成32年までの、と書いてあります。

□委員 これはそういう推計だから。

□委員 これは平成の時代の判断で当時32年になろうということが想定されているので、その当時はいいんですよ。今言っているのは、平成32年っていうのはないから。

□委員 だから『つまり令和2年に』と書いている。

□委員 だからそれは今私が言ったように内容から……

□委員 だから現実にはどうか、というと平成32年、つまり令和2年ではって書いてあるからこれでいいんじゃないか。

□委員 皆さんに違和感がなければそれでいいです。私はすごい違和感あった。

□委員 全然ない。

□委員 私も全然違和感ない。つまり、というところで令和二年って補足してあるのでこのままでも。

□委員 このままが正解じゃない？

□委員 そのあたり今の各会長の意見をちょっと見ておいて、どうするか検討してみ

てください。他の方が読んだときに違和感があるかないか。

□事務局 はい。また執筆者と相談をさせていただきます。よろしくお願いします。

□委員 36ページの新市の概要のところも昭和60年(1985)から平成12年(2000)って書いてあるのは親切でいいと思うよ。昭和から平成だって、平成ってこれ西暦何年?となるから。そこはあった方がいいと思う。

□委員 元号が変わるところは西暦を表記していた方がわかりやすいですね。

□委員 あと全体のところにかかるもので何かありますか?

□委員 ちょっと事務局に言いたいんだけど、校正の視点と言いますか、何をもって校正をしていくかということをはっきりしていかないと。この鉛筆書きで誰かがやられて思いつくことが色々書いてあるけど、何をもって校正していかうとしているかっていう。まず大きなことが2つあって、1つは書かれていることが事実かどうかという確認が一番大事だと思うんです。例えば内容の誤りですね。それを正していくということで。177ページの上段に林業のことですが、『令和3年における市内の森林面積は、次表の通り、38941haで、民有林面積は34147ha』ってありますよね?これが179ページを見てください。179ページの上段、中央あたり。『また、市内の森林面積は、令和3年に、38988ha、民有林は34194ha』。前の記述と違いますよね?これは表記の問題ではない。内容の問題。内容的に違っているんですよ、数字が。

□委員 あと人工林の面積も20812じゃない、20871なんですよ。この表でいくと。

□委員 だから大きな視点として、書かれていることが事実かどうかということだけれど、それは私たちには確かめようがない。本当かどうかっていうのは。ですから、それは事務局が責任を持って内容的に正しいというようなことをはっきりさせることが大事で、私たちに聞かれてもそのことが。確かこの中に1カ所だけ出来事の年を変えたのがありましたよね、鉛筆書きで。探し出そうと思ったけどどっか行っちゃってわからないですけど、西暦年が違って書き直してあるんだけど、どうやって見つけたんだろうなど。ここに書かれていることが事実かどうか。今のやつは前後に一カ所あったので見つけられるけど、他のものが1回出てくるだけのものは本当にその年にあったのか、本当に人名に間違いはないのか。そのことが1つの調整の視点だと思うので、私たちではわからないのでやってほしいなど。

□事務局 事実の確認に関しては仰られる通りですので、こちらでしっかり確認して反映させていただきます。特に先程挙げられた森林のところなどですね、担当課にもしっかりとどうしてこのような数字になっているかというところを確認していきたいと思います。

□委員 11ページの上段後ろからの文面で『道の駅ラ・フォーレ福寿の里』ってあるのに、214ページの下段『上矢作ラ・フォーレ福寿の里』。今の施設などはやっぱり固有名詞になるので、同じじゃないと。

□事務局 こちら、はい。固有名詞ですので、ラ・フォーレの方に確認して反映させて

いただきます。

□委員 で、今の会長からの179ページの令和3年の38988は表の3-2-5の森林面積に記載された数字と違うので、民有林も同様に違います。で、179ページの民有林面積34194。これは間違いないんですが、この後に続く人工林面積20871、表3-2-5から20812となるので、これもちょっと農林になるのかな？

□事務局 林政課ですね。

□委員 そっちの方でもちょっと確認してください。やっぱり表の数字とこの2カ所。それぞれページが違うんだけど、違う数字が出てきたので。

□事務局 はい、ありがとうございます。

□委員 最後に。細かいこと言っているとすごく時間かかるんですけど、2つ目の柱は表記の問題だと思うんですよね。で、1つは正しいか誤っているかっていうようなことなんです。184ページの上段の6行目『深い味わいを楽しみことができる』って書いてあるんですよ。正誤という正しいか間違っているか、ということだと思うんですけど。あと表記の問題としては適否って言って、適切か適切じゃないかってこと。間違っていないが、適切ではない校正もあるんですよね。確か『泣き別れ』とか言うんですけど、数字が。3ページの下段、後ろから6行目。要するに本来一つじゃなくちゃいけないのに行が渡っているんですよ。4ページの上段、前から6行目。

□委員 平成13年？

□委員 そうですね。そういう風に別れちゃっているんですよ。読むときに1が出てくるんです、頭の中に。で、本来13でないセットじゃない。そういう風に本来……人名とかも。

□委員 家康の国家安康になっちゃうね。

□委員 これは名前なんですけども、220ページの最後に『恵那市のふるさとの先人、儒学者の佐』ってなっているんです。だから佐藤一斎という名前は塊にしておかないと、泣き別れ、特にこれページが渡っているから失礼だよ。

□委員 でもこれはどうしようもない。

□委員 仕方がないよね。

□委員長 こういうのいっぱいありますから諦めてください。

□委員 はい、諦めます。ただ直せるところがあったら、これはさっき言ったように正誤ではないので。

□委員 この辺の人は佐藤一斎わかるんで「ああ、佐藤一斎だな」って続けて読めるんでね。

□委員 体裁でね、直せれるところは直して行って。

□委員 さっきの183ページと184ページが逆転してるんで

□事務局 はい。

□委員 86ページの下段の終わり三行ね、明らかに文字がおかしいですよ。機械

の、勝手に判断されちゃうやつじゃないけど。これたまたまここでしたけれど、他にもあるやもしれないので。

□事務局 はい。

□委員長 これは句読点が頭に来ないための自動処理だね

□事務局 そこらへんは悩みの種なんですよ。最近電子写植になって、今まで詰めて全部やっていたのが変わってしまって合わせようとするんで、そいつを潰す仕事が結構大変で。そいつは逐一指摘して直してもらえないので。

□委員長 今日の初校に関する皆様のご意見、これは何とか反映してまとめて最高のものを作ってほしいです。どうでしょうか。

□委員 地区のことは個別で事務局に伝えたらって話ですけども、例えば自分の地区だけ見ていると全然問題ないけれど他のところと見比べると問題になってくるところがあります。10ページの上の段『東濃檜』という表記の仕方ですよ。で、次のページの真ん中あたり。ここは森林のことが載っていて『東濃ひのき』が東濃が漢字で、ひのきは平仮名、そして「」もない。だから揺れている、表記が。これは自分のところだけ見ていると何にもわからないけれど、他所と比べた時にわかります。上矢作が色々アレですけども……10ページの下段、後ろから4行目。『主要地方道瑞浪一大野瀬線』は瑞浪と大野瀬の間にハイフンが入りますけど、9ページにお戻りください。串原の位置のところ『東西に主要地方道瑞浪大野瀬線』ってハイフンはないですね。ですから自分のところだけ見ても問題は別にないって思うんだけど、やっぱり他と比べながら自分のところも見ないと良い校正は出来ないんじゃないかなと思いますね。

□委員 実際にハイフンがあるのかなのか、どっちが正解か

□委員 今言われたみたいに仮にハイフンが書いてあっても、なくても統一されていたら苦にならないですよ。

□委員 6ページなんですけれど、11行目『我が国の植物学の基礎を築き、桜、菖蒲』と書いてありますが、桜及び花菖蒲ですよ。菖蒲と花菖蒲じゃあ違いますよね。本当は片仮名の方がいいんですけど、花を付けてください、花を。

□委員 同じページで言えば『実践女学園』じゃなくて『実践女子学園』なんだけどね。261ページのところには下田歌子のところ『実践女子学園』って書かれているので。

□委員 さっきのラ・フォーレもそうですけれど、固有名詞はちゃんとしないと別ものに捉えられてしまいかねないので。

□事務局 はい、取り急ぎさせていただきます。

□委員 それじゃあ私もいいですか？ さっきの委員と同じところは直してもらって、248ページの恵那農業高等学校のところ。『4学科、「園芸科学科」「食品科学科」「環境科学科」また「園芸科学科」』ですので、これは園芸デザインではないかなと思うんですけども園芸科学が二回出てくるので。

□委員 本当だ、園芸科学科二つあるね。

□事務局 はい、そうですね。こちらも表記の間違いですので恵那農高の Web サイトなり確認をして、道路も併せて様々なものを直させていただきます。

□委員 あと 266 ページの上の段、新市変遷のところ。8月14日の4行目。午後7時半となっていますので、駄目かなと思うくらいの……亜が余分ですよね。そういったところがちょくちょくあると思うので、だから最初に言ったようにこれで終わりというのは心配なので。個々に連絡があると。皆さん今日聞いてもらっていますので、どこかのスケジュール空けてもらって……毎回のところじゃなくていいので、会長会議の後は大変ですけれども、そういったところを早めに決めていただければと。

□事務局 はい、またタイミングを見て開かせていただきますので。よろしくお願ひします。

□委員 その他の話は口で言えばいいってことね。

□委員 会長会議で意見を求めるのはいいんだけど、事務局の人たちが責任を持って本気でやってもらわないと次から次へと出てくるでしょう？ 結構すぐわかることだっていっぱいあったと思うんですけど、チーム組んで読み合わせをしたりして見てないんじゃないの？ 何遍読み通しをされましたか？

□事務局 やり方としましては私どもも読み通しはしていますし、それ以外に各課に確認してもらって、その中で担当者の名前を書いてもらってそれで OK をもらっていると。それでもこれだけ間違いが出てきてしまいますので。しっかり今後も、時間も数か月しかありませんので、しっかりやっていこうと思っておりますのでよろしくお願いします。

□委員長 今事務局が申し上げた通り皆さんから沢山のご指摘をいただいたので、こういうのを合わせて検討をしていくっていうね。まとめてね。それじゃあ沢山細かいところを整理しなきゃならないので、事務局からお示しいただいて提示いただきまして、そういう形で沢山いただいたご意見を活かして原稿を最高にまとめていきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。ありがとうございました。

□事務局 すみません、やはり沢山の目があると訂正点もたくさん見つかってくるな、というところで。大変助けられております。

(3) 口絵・資料編内容の確定について

□事務局 続きまして議事3の資料編の内容の確定についてなんですけれども、資料編周辺については事前に送付できずに申し訳ございませんでした。口絵につきましては、実際はカラー印刷になりますので今回はイメージ段階ということで白黒で送らせてもらっております。細かい修正は今示した通りですけれども、まだまだでてくるかなというところはあります。資料編についてはこちらは Web でアップロードするものですので、実際にはもうちょっと削らせてもらうことになります。書籍にする場合ですね。というのも書籍版にはページ数の限界がありますので、それにどうしても合わせるとなると資料編の方は縮めさせてもらうような形になります。ただ、Web サイト版には完璧なものを載せさ

せてもらうというようなことになっております。

□委員長 市史は沢山のものを盛り込むということでも少なくなったりする問題ですが、資料編については30ページ少ないので最小限必要なものをまとめ上げるということで、その結果今会長が急に出されても意見が出てこない。30ページは短すぎる、と言いつけていたんですがやはり変えられない。必要最小限で、口絵は頭に。まだ目次が残っております。最後のときには目次も入れられますね？

□事務局 はい。

□委員長 実際に完成していくにはちょっとね、写真が多すぎて心配。それは絞ってこうなっていますので、ね。口絵、資料編についてはまた意見がありましたら各自事務局にお伝えください。

(4) 表紙の生地について

□委員長 じゃあ最後のですね(4)、表紙の生地ですね。見本の紺か濃い紺か。

□事務局 前の恵那市史の体裁に合わせて色を選んでおりますが何分30年前のもので、同じものはありませんので、一番近いものを3つ選ばせていただきました。で、その中であとはお好みですので、これがいい、というもので……事務局で決めるのはどうかと思われましたので提示をさせていただきました。好みになるかと思えます。

□委員 これ濃淡が違うってこと？

□事務局 おそらく真ん中が一番濃い、と思います。

□委員 一番上が明るい？

□事務局 そうですね、一番上が明るいです。

□委員 どれが前の市史に近い？

□事務局 真ん中がそうですね、見た感じ一番近かったところですね。前の市史の表紙もお見せします。

□委員 一緒に回してもらおう。同じものはない、近いのは真ん中で。

□委員 真ん中だな。

□委員 やっぱり市史の重みを、と考えると濃い方が重みがあると思います。

□委員長 まあ濃いのにしておいて、一番近い方がね。

□委員 そうですね。

□委員長 お願いいたします。

□委員長 はい、それではですね。皆さん、何かご意見はないでしょうか。

□委員 今いいのかな？ 資料編の裏から5ページの下の段ですね。令和5年、令和6年の全体の数値が同じ数字でこれでいいのかと。

□事務局 こちら市民課に確認して修正させていただきます、ありがとうございます。

□委員 令和6年ってデータ出せる？

□事務局 令和6年4月1日時点であれば出せます。

□委員 これ暫定が入ってるんじゃない？ 全部同じだから。

□委員長 いいですか皆さん。

□委員 6年の段階で終わってないので正確に出せないと思う。4月1日に出てくるのなら5年とは違うはずなので。

□委員長 いや本当に今日は厳しくご意見をありがとうございます。なお、心配の件は是非また事務局の方にご連絡をいただきたいと。まだ初校ですが、校正して良い中身を整えていきたいと思います。あとですね、先程から申し上げましたように心配なのは是非教えていただきたい。ありがとうございます、以上で本日の全ての議事が終了いたしました。じゃあ事務局にお返しします。

5 閉会

□事務局 はい、様。誠にありがとうございました。今日までですね、そう、足掛け3年間に渡りまして4回市史編さん委員会を開催させていただきました。また今日、修正確認等の話が出ましたので、委員会は一旦終了させていただきますが引き続きですね、この確認をまた精査の方を開始するという作業をさせていただいて、また校了の前にお示しをしていただいて最終的な承認を得るという作業をさせていただきますので引き続き事務局にて市史の磨き上げをして参りますのでよろしくお願いいたします。それでは閉会の挨拶を終わりに副委員長様の方からよろしくお願いいたします。

□副委員長 今お願いされましたけれども、一応私委員の任期としては今年度いっぱいなので、今日で消し飛ばしですね。このスケジュールはちょっと大変だと思うので、1回置きぐらいの頃であと2回程度は確認。また、それまでにこの部分だ！ というのは出てくるかもしれません。委員会までに気づいたところがあれば個別で事務局の方へ連絡していただいて、次回の校正委員会でそのものも含めて発表してもらえばいいと思います。この委員会と別に個別で今後の訂正が必要じゃないか、とか意見があったところを。で、市政20周年の記念の市史なので、やっぱり関わった以上は100%は言わないまでもほぼ正確な、皆さんが目を通して「なるほどな」って見てもらえるような、そういったものにしていきたいと思いますので任期中頑張ります。

□事務局 よろしく申し上げます。

□副委員長 ではよろしく申し上げます。じゃあ以上で本日の編さん委員会、これにて終了しますので、また早い時期に連絡をください。

□事務局 はい。

□副委員長 今日と同じような開催でいいかな、と思います。で、この日に開催というよりはちょっと時間は遅くなりますけれども、場合によっては連絡をしてもらえばそのように予定は空けますので。お願いします。

□事務局 はい、ありがとうございます。